

「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」

総務省 「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」公開ヒアリング

ホワイトスペースの活用方策等に関する提案

新型コミュニティマルチキャスト放送を活用した 「カレッジ・ワンセグ放送局」の提案

【 説明資料 】



ヨコハマ開放区

株式会社 テレビ神奈川

【カレッジ・ワンセグ放送局】

- 横浜国立大学・横浜市立大学を中心とした7大学が連携して2010年4月に開校した「横浜文化創造都市スクール（通称・北仲スクール）」（横浜市中区北仲通5）を拠点に、横浜都心臨海部向けに「カレッジ・ワンセグ放送局」を設置する。
- 使用エリア：横浜市中区北仲地区（関内）周辺

大学が有する人的ネットワークを元にした研究や、
教育分野などの魅力的なコンテンツを活用

コミュニティ放送の運営母体として、地域のメディア（テレビ神奈川）
と大学、NPO、横浜市が連携した共創型の運営体制を構築

Web放送・モバイル・デジタルサイネージにもコンテンツを配信し、
多メディア連携で事業モデル化を図る



人材と映像素材が集まる仕組み(拠点・体制・システム)が あって始めて「放送」が成り立つ



北仲・カレッジ放送局

7大学・tvk・ICT推進NPO

コンテンツ・拠点・ネットワーク・ビジネスモデル

横浜市

地域情報化の推進
ICT人材の発掘・育成

観光・シティーセールス
・商業振興の施策

先端科学技術・新産業
創造関連の施策

起業支援、ソーシャルビ
ジネス等支援施策

文化芸術振興による
横浜都心部活性化

市民活動・スポーツ
振興関連の施策

番組制作

映像コンテンツ制作者の発掘・育成

コンテンツ分野の人材・企業の顕在化

地域のフィールドワーク

地域資源の社会化と
プロジェクトのブランディング

大学の「知」を広く発信

映像制作者 コンテンツ関連事業者

メディア

広告代理業

地域コミュニティ

市民活動団体

コンテンツの地産地消
地域活動・産業の活性化

さまざまな分野の
企業・商業施設

コンテンツの効果的な活用推進・ネットワーク化

地域の魅力あるコンテンツを収集・編集・編成し、
多角的に配信するフローを確立する

2009年6月1日の機構改革で、営業本部事業局デジタル事業部を新設の「クロスメディア局」に移管し、クロスメディア局「デジタル事業部」と「デジタル推進室」が誕生。



＜クロスメディア局の取り組み＞

◆ tvk 公式WEBサイト / 公式ケータイサイト

◆ データ放送 / 自治体データ放送

- ・ 県内のイベント情報を「マイタウン」としてデータ放送で放送
- ・ 神奈川県内の自治体が情報を発信



◆ 横浜市・地域NPO団体等との連携

- ・ 地域の多様なコンテンツを動画にして配信する仕組みづくり
- ・ 行政からの情報をさまざまなチャンネルを通じて市民に届ける情報基盤を構築

tvkヨコハマネットTVβ

◆ tvkヨコハマネットTV

- ・ インターネットで時間軸編成を行い番組を配信：CMスポンサーを獲得
- ・ 地域のICT推進NPOと連携：ローコストで一定のクオリティーのコンテンツを制作



北仲・カレッジ放送局
 7大学・tvk・ICT推進NPO

コンテンツ・拠点・ネットワーク・ビジネスモデル

◆tvkヨコハマネットTV

テレビのビジネスモデルをインターネットで展開する新しい形のインターネットテレビ

◆放送コンテンツを時間軸に沿って配信するためのEDPSシステム

平成22年度に新規に開発した簡易EDPSシステムを使用

昨年8月よりNPOと連携したコンテンツ制作体制を確立し試験運営中

＜特徴＞狭域に向けたキメ細かな情報配信・Wi-Fiのネットワークを使い、携帯端末（iPhoneなど）へ向けた情報配信・位置情報と連動したイベント情報、店舗や商店街などのお得情報など

全国へ向けた情報配信・インターネットを使い、地域の情報を全国へ・防災（緊急）情報の配信（⇒データ放送の「防災気象情報」を活用）ビジネスモデルづくり・番組と番組の間にCMを挿入・放送コンテンツと連動したCMバナーを映像画面の横に掲載





◆tvkヨコハマネットTVの取り組みから見てきたこと

- 「映像作品」という大きなカテゴリーを俯瞰してみると、テレビはさまざまなハードルを自ら設けて、ごく狭い範囲の「映像作品」しか扱ってこなかった。
 - クオリティの高い映像作品はプロフェッショナルしか創れない？
 - 高画質の作品は高価なカメラを使わなければならない？
 - 規定の時間内にキチンと収まっていなければならない？
などなど…
- 今や一般の人たちがカメラを持ち、気軽に「映像作品」を作る時代。カメラは高機能化し、プロフェッショナルとの境界はほとんどないに等しい。
- むしろ、事件・事故などのスクープ映像は一般の人たちが撮る可能性が高い。
- こうした一般の方々の「映像作品」を多様に利活用しない手はない。
 - 映像の作り手を発掘・育成し、常に情報を送り合う関係を構築したい
 - 地域に愛情を持ち地域に「情報でかかわる」参加の仕組みづくりに貢献したい



若手の活力と大学が持つネットワークを活用して番組制作体制のモデル化を図る

□ 「地域」が作る番組

- 今までテレビが扱ってこなかった、新しいカタチの番組の開拓を実践する。
- 有能な人材の発掘 ⇒ もはやテレビ局のプロに頼る必要はない！
- 有能な人材の育成 ⇒ 講座を運営して、撮影のノウハウ等を伝授
- 市民レポーター認定 ⇒ 講座を受講した市民を「レポーター」として認定

□ ニュース番組を「地域」でつくる

- 特派員リポート(ジャーナリスティックな斬り込みのある内容のもの)
- (アマチュア)スポーツニュース
- 大学生の手による「朝まで生テレビ」風討論番組 などなど。

□ 事件・事故、災害等の現場から生放送

- 最新の通信技術を使い、中継車などを必要としない生中継方式の確立

境域の地域情報を編成・配信する体制を持続可能にする

「地域の魅力創造・地域を元気にする」⇒ 地域情報化を推進